

言葉の「ゆれ」にどう向き合うか

——新聞と辞書の相互作用から考える



日本新聞協会用語専門委員
関根健一

新聞の言葉

ゆれ

辞書の言葉



辞書が認めているから

|| 規範を求めて

新聞の言葉

誤用

俗語

新語

読者が支持

新用法

辞書の言葉

使用頻度増

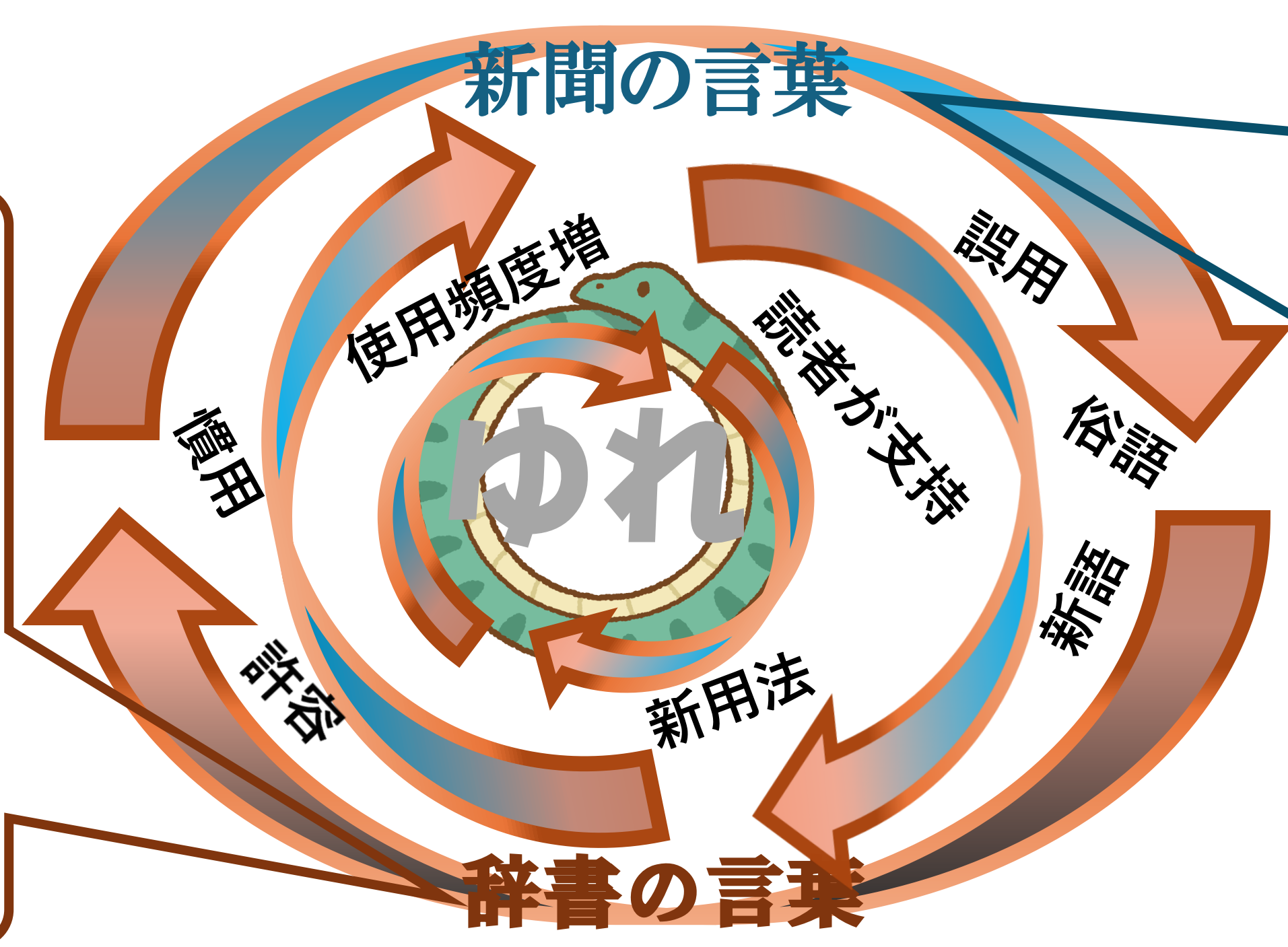
實用

略称

ゆれ

新聞が使っているから

|| 実態の反映として



新聞の言葉

辞書の言葉

流れ込む
言葉

業界用語
俗語・流行語
ネット用語

官庁用語
専門用語
学術用語

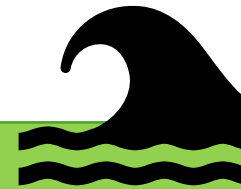
後ろ倒し

期待値

肝いり

自分ごと

佳境



ひもとく
敷居が高い
鳥肌が立つ

帯同
真逆

募金

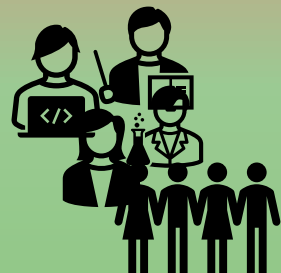
課金

人繰り
発災

日程感
肌感覚
大宗

世界観
世界線

- 官庁用語
- 専門用語
- 学術用語
- 業界用語
- ネット用語
- 俗語・流行語
-



• 新聞



• 辞書



紙面上では談話・引用で散見される
(2021年ごろ)

新聞

使う

子どものオンラインゲーム
無断課金につながるあぶない
場面に注意！！（国民生
活センター 2024年）

「インターネットの有料サー
ビスを利用する」の意味で
「課金する」という＝80.7%
「国語に関する世論調査」
(2024年度)



俗に、利用者が料金を払うことを指して使われる
が、立場が逆になり誤解を招くので「料金を払
う」「金をつぎ込む」などとする。
「朝日新聞の用語の手引」（2025年）

料金を課することが本来の意味だが、「課されて支
払う」ことにも使われる。紛らわしいので支払う
場合は文脈に応じて「料金を払う」「有料サービ
スを受ける」などと書き換える。
「毎日新聞用語集 2025年版」

②〔新〕料金を支払うこと。また、
その料金。
「明鏡国語辞典」第3版（2021年）

②課された料金を払うこと〔二十一世紀になって広まっ
た用法〕お金を取る側の行動に使う言葉が誤解されて、
しはらう側にも使うようになった。
「三省堂国語辞典」第8版（2022年）

認める



認めない



料金を負わせること。また、その金。
「広辞苑」第7版（2018年）

使用（利用）料金を課すること。また、そのか
ね。「岩波国語辞典」第8版（2019年）

賃借料・使用料などの料金を課すこと。また、
その料金。「新明解国語辞典」第8版（2020年）

辞書

「買い物をしてためたポイントを、ボランティア組織などに募金できる仕組み」
(2005年読売新聞)

お金を出す側の行為は「募金に应じる」
「寄付する」などとするのが望ましい。
(読売スタイルブック)

寄付することや、自分が寄付した金「募金」と呼ぶのは俗用。
(朝日新聞の用語の手引)

募金を集める→寄付金（義援金）を集める、募金をする、募金活動をする。
(毎日新聞用語集)

募金
お願いします



許容へ向かう  **辞書** 

あらがう  **新聞**

〔誤った使い方〕お金を寄付すること（三国8版2021年）

〔誤った使い方〕お金を寄付すること（三国7版2014年）

また、その集めたお金（三国6版2008年）

②金を寄付すること。また、その金。主催者側の言い方をそのまま受けて言ったもの（明鏡）

醵金・寄付する行為の意は1980年ごろ学校から広まった誤用で、現在かなり多用（岩国）

「新聞用語集」(1981・1996・2007・2022年版)

収載「誤りやすい表現・慣用語句」

誤りやすい表現・慣用語句	81	96	07	22
愛想を振りまく		○		
青田刈り	○	○	○	○
明るみになった	○	○	○	○
悪評さくさく	○	○	○	○
足蹴りにする		○	○	○
足元をすくう			○	○
汗と脂の結晶		○		
頭ごなしの交渉		○	○	○
頭をかしげる	○	○	○	○
当たり年		○	○	○
あっけにとらせる		○		
庄巻				○
あとで後悔する		○	○	○
アドバランを揚げる		○	○	
網の目にかかる		○		
雨模様				○
アリの入り込む隙もない		○	○	○
あわや		○	○	○
怒り心頭に達する	○	○	○	○
いぎたない		○	○	○
いさめる			○	○
異存は出なかった		○	○	○
一番最後・最初・ベスト		○	○	○
一刻千秋	○	○		
一姫二太郎		○	○	○
一生一代		○	○	○
上にも置かぬもてなし		○	○	○
上や下への大騒ぎ		○	○	○
受けに入る			○	○
後ろ髪を引かれる思い	○	○	○	○

	81	96	07	22
後ろから羽交い絞め		○		
後ろへバック		○		
裏舞台での交渉		○	○	○
笑顔がこぼれる			○	○
沿岸沿い		○	○	○
炎天下のもと		○	○	○
おうむ返しに反論する		○		
大風呂敷をたたく		○		
屋上屋を重ねる		○	○	○
オクターブが上がる		○		
押しも押されぬ	○	○	○	○
お歳暮の贈り物		○		
押っ取り刀		○	○	○
おぼつかぬ・おぼつかず	○	○	○	○
汚名を挽回・汚名を回復	○	○	○	○
汚名を晴らす			○	○
思いがけないハプニング		○		
重し		○	○	○
お求めやすい		○	○	○
お役目御免になる	○	○		
およそ一時間ほど		○	○	○
女手一人で		○	○	
垣間聞く	○	○	○	○
書き下ろし文		○	○	○
佳境				○
確信犯				○
風下にも置けぬ	○	○	○	○
喝采を叫ぶ		○	○	○
喝を入れる			○	○
カトリックの牧師			○	○

	81	96	07	22
かねてから		○	○	○
金に任せて				○
髪をまるめる		○	○	○
かも止め		○		
枯れ木に花のにぎわい		○	○	○
元旦の夜	○	○	○	○
間髪を移さず		○	○	○
疑心暗鬼を抱く		○	○	○
期待倒れ		○	○	○
気の置けない人		○	○	○
着の身着のまま	○	○	○	○
肝に据えかねる		○	○	○
享年				○
鳩首を集めて協議	○	○		
清水の欄干から飛び降りる		○		
草木もなびく丑三つ時		○		
くしの歯が抜けるように	○	○	○	○
口先三寸		○	○	○
口をつむる		○	○	○
口を濁す	○	○		
苦ともせず		○		
国敗れて山河あり	○	○	○	○
苦杯にまみれる		○	○	○
喜れなずむ		○	○	○
けがを負う		○	○	
激を飛ばす				○
けむりに巻く		○	○	○
けんけんがくがく	○	○	○	○
言質（げんしつ）		○	○	○
けんもほろほろ		○	○	○

	81	96	07	22
公算が強い	○	○	○	○
呉越同舟	○	○	○	○
小冠者	○	○		
こけら落とし		○	○	○
心やり	○			
古式豊かに	○	○	○	○
姑息				○
後手を踏む			○	○
小春日和		○	○	○
御用始め・御用納め		○	○	○
古来から			○	○
…さ（円熟さ、積極さ）		○	○	○
さおさす	○	○	○	○
策士策に敗る	○	○		
里帰り		○	○	○
さわり			○	○
三タテ				○
敷居が高い				○
私淑する			○	○
至上命題			○	○
舌の先の乾かぬうち		○	○	○
（パンダが）死亡			○	○
射程距離に入る			○	○
十人並み		○	○	
従来から・従来より	○	○	○	○
照準を当てる			○	○
上手の腕から水が漏れる	○	○	○	○
食指をそそる		○	○	○
食指を伸ばす				○
白羽の矢を当てる		○	○	○

「新聞用語集」(1981・1996・2007・2022年版)
収載「誤りやすい表現・慣用語句」

	81	96	07	22
白羽の矢を射止める			○	○
素人はだし		○	○	○
シロクロをつける	○	○		
ジंकス	○	○	○	○
死んで花実がなるものか		○	○	○
酸いも辛いもかみ分ける		○	○	○
住めば都		○	○	○
寸暇を惜しまず働く		○	○	○
成功裏のうちに		○	○	○
世間ずれ				○
雪辱を晴らす			○	○
ゼッケンナンバー・番号		○		
背中が寒くなる		○	○	○
善戦		○	○	○
全然		○	○	○
前夜来の雨			○	○
そうは問屋が許さない		○	○	○
袖振り合うも多少の縁	○	○	○	○
第一日目		○	○	○
大寒の入り		○	○	○
退屈ざましに		○		
他山の石	○	○	○	○
ただ今の現状		○	○	○
～たり～たり		○	○	○
他力本願		○	○	○
単純なイージーミス		○		
追撃				○
積み残し客		○	○	○
（AはBの）敵ではない	○	○	○	○
デッドロックに乗り上げる	○	○	○	○

	81	96	07	22
(～の) 手ほどきを教える	○	○	○	○
出るくぎは打たれる		○	○	○
天下の宝刀		○	○	○
取りつく暇もない		○	○	○
鳥肌が立つ		○	○	○
流れにさおさす				○
情けは人のためならず		○	○	○
成さぬ仲			○	○
斜めに構える		○	○	○
何物でもない	○	○	○	○
名前負け			○	○
なまなか	○			
仁王立つ		○		
苦虫をかんだ	○	○	○	○
煮詰まる				○
二の句が出ない		○	○	○
入籍			○	○
熱にうなされる	○	○		○
麦秋		○	○	○
破天荒				○
鼻にもかけない			○	○
はなむけ		○	○	○
犯罪を犯す		○		
腹が煮えくり返る			○	○
晩年	○	○	○	○
被害を被る		○	○	○
ひそみに做う		○	○	○
人目をそばだてる	○			
微に入り細にわたる			○	
火ぶたを切って落とす		○	○	○

	81	96	07	22
日を夜に継いで	○	○	○	○
袋小路にはまる・落ちる		○	○	○
儼然				○
符丁を合わせるように	○	○	○	○
フリーの客		○	○	○
…べき止め		○	○	○
（お）へそを抱えて笑う	○	○	○	○
下手な考え休むに似たり		○	○	○
法案成立		○	○	○
まだ時期尚早		○	○	○
まだ未解決問題		○	○	○
まだ未定		○	○	○
的を得た発言		○	○	○
眉をしかめる			○	○
まんまと失敗		○	○	○
耳障りのよい		○	○	○
耳をかしげる		○	○	○
迎え水となる		○	○	○
無垢の民			○	○
胸先三寸		○	○	○
胸が煮えくり返る		○		
めくるめき輝き		○		
メッカ		○	○	○
目をひそめる		○	○	○
燃えたぎる			○	○
（著作を）ものにする		○	○	○
門前雀羅のにぎわい		○		
やおら		○	○	○
矢折れ刀尽きる		○	○	○
役不足		○	○	○

[illegible]

「新聞用語集」〔誤りやすい表現・慣用語句〕から

1981年版のみ掲載

心やり

なまなか

人目をそばだてる

1996年版のみ掲載

愛想を振りまく

汗と脂の結晶

網の目にかかる

オクターブが上がる

2007年版から掲載

私淑する

至上命題

(パンダが) 死亡

鼻にもかけない

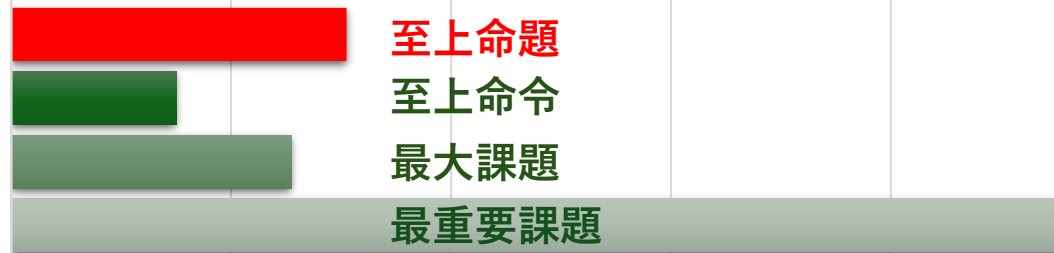
2022年版から掲載

姑息

確信犯

追撃

1986-95



もう、ゆらさない
「至上命題」

「至上命題」は誤用として避けられるようになるとともに、「絶対に従わなければならない命令」の意の語の使用も減少。

96-2005

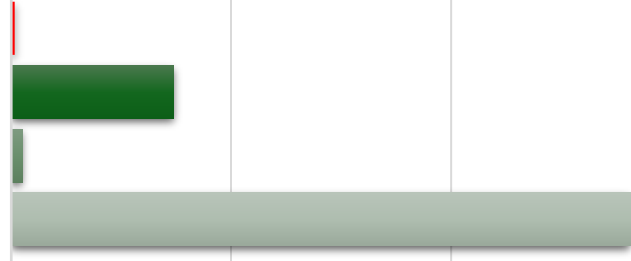


2006-15



2007年版「新聞用語集」
至上命題→至上命令、最重要課題
絶対に従わなければならない命令、任務は「至上命令、重大使命」。どうしても達成しなければならない課題は「最重要（最大）課題」。「命題」は論理学用語で「犬は動物である」のように判断を言葉で表したものの。

2016-25



「岩波国語辞典」第7版（2009年）「至上命令」の項＝これを「至上命題」というのは誤用。

「明鏡国語辞典」第2版（2010年）「至上命令」の項＝達成しなくてはならない最重要課題の意で「至上命題」を使うのは、「至上命令」と混同したもの。

命題②課題。題目▽本来、誤り（岩国）

命題③課せられた問題（明鏡）

命題②課題、問題（三国）

<国語辞典>

ジンクス

本来は縁起の悪い物事をいうが、**近年**では縁起の良い物事をいう場合もある。(大辞林)

矢先

何かを始めようとする、ちょうどその時。始めたばかりでまだ物事が成就していないその時。物事が完全に成就した時にいうのは**新しい**使い方。

(明鏡国語辞典)

惘然

近年、「惘然たる面持ちで」とした場合、「腹を立てているような顔つき」の意味で使われることが多くなっているが、本来は誤り。(大辞泉)

<新聞用語集>

ジンクス(81、96、07、22)

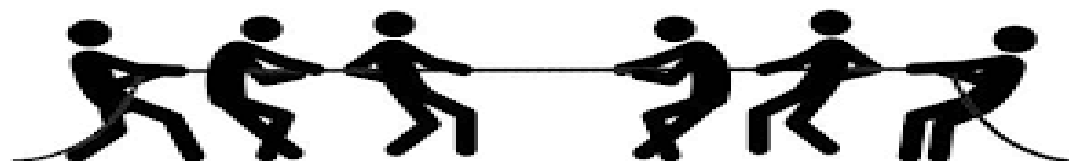
元来「縁起の悪いもの」「けちのつくもの」の意。「縁起がよい」意味で許容している**辞書もあるが、使わない方がよい。**

矢先(07、22)

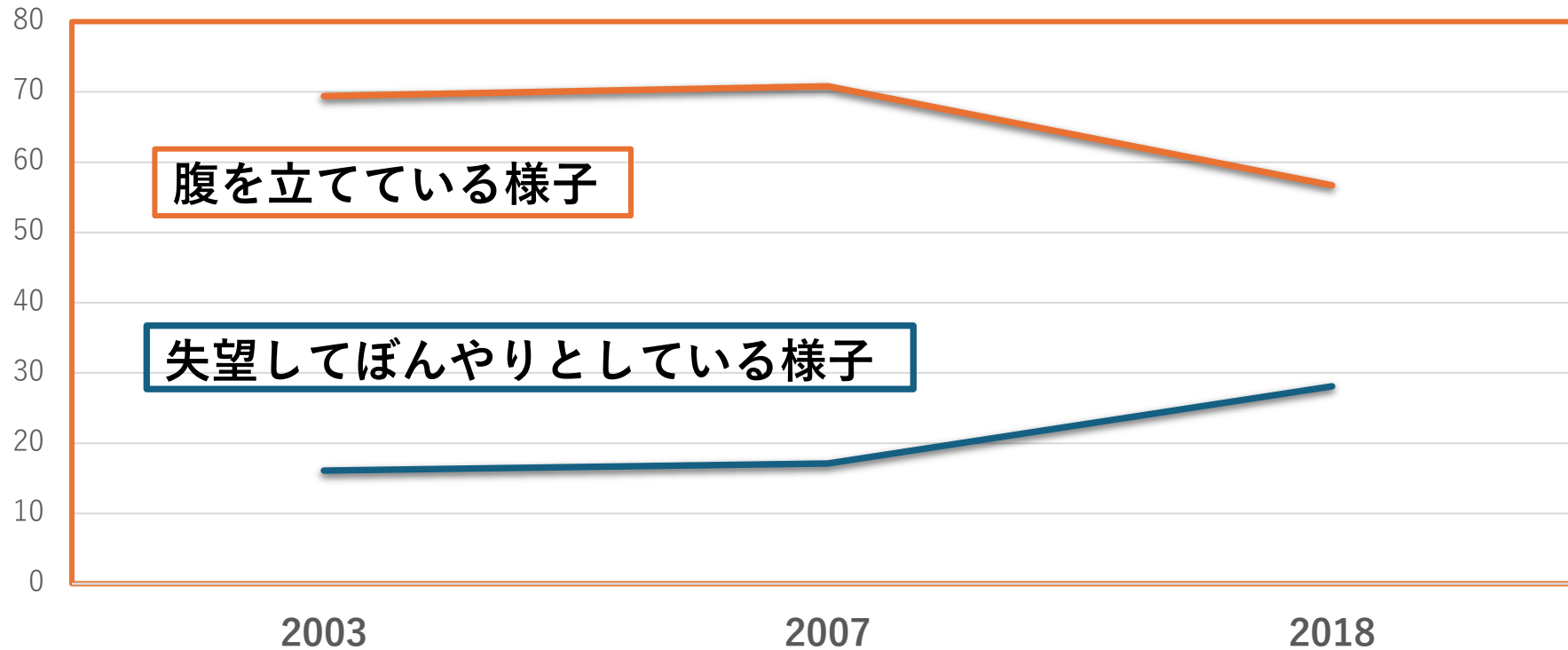
何かが始まろうとする直前の意。「外出しようとする(した)矢先に客が来た」のように「ちょうどその時」までで、「直後」の場合「外出した矢先」とするのは**適切ではない。**

惘然(22)

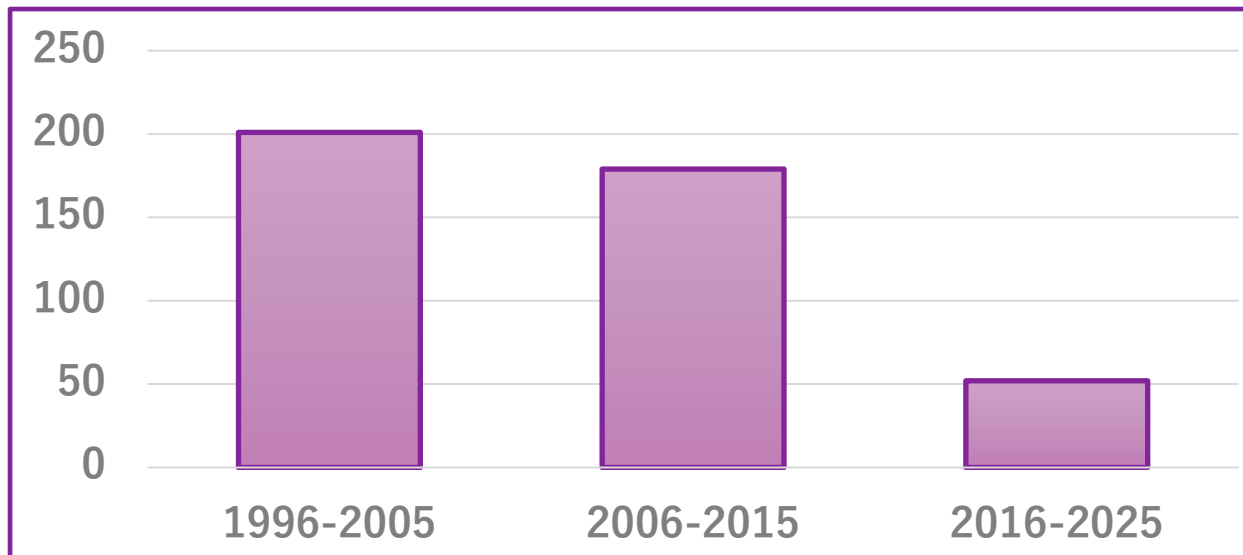
「腹を立て、むっとする」意味で**使われることが多いが、本来は「失意や不満で、むなしく、やりきれない思いでいるさま」**



国語に関する世論調査



読売紙面 出現件数



無然

落胆したりあきれたりして、
呆然とするさま。▽無はがつ
かりする意。[使い方] **俗に
むっとする意にも使う**。「無然
として反論する」
(明鏡国語辞典)

- ①[文]どうにもならず、力
を落とすようす。
- ②[文]意外な出来事にぼうぜ
んとするようす。
- ③ **むっとしたようす**
[!] 古くからの用法は①②。現
在、最も多く目にするのは③
で戦後に広まった。
(三省堂国語辞典)

<国語辞典>

ジンクス

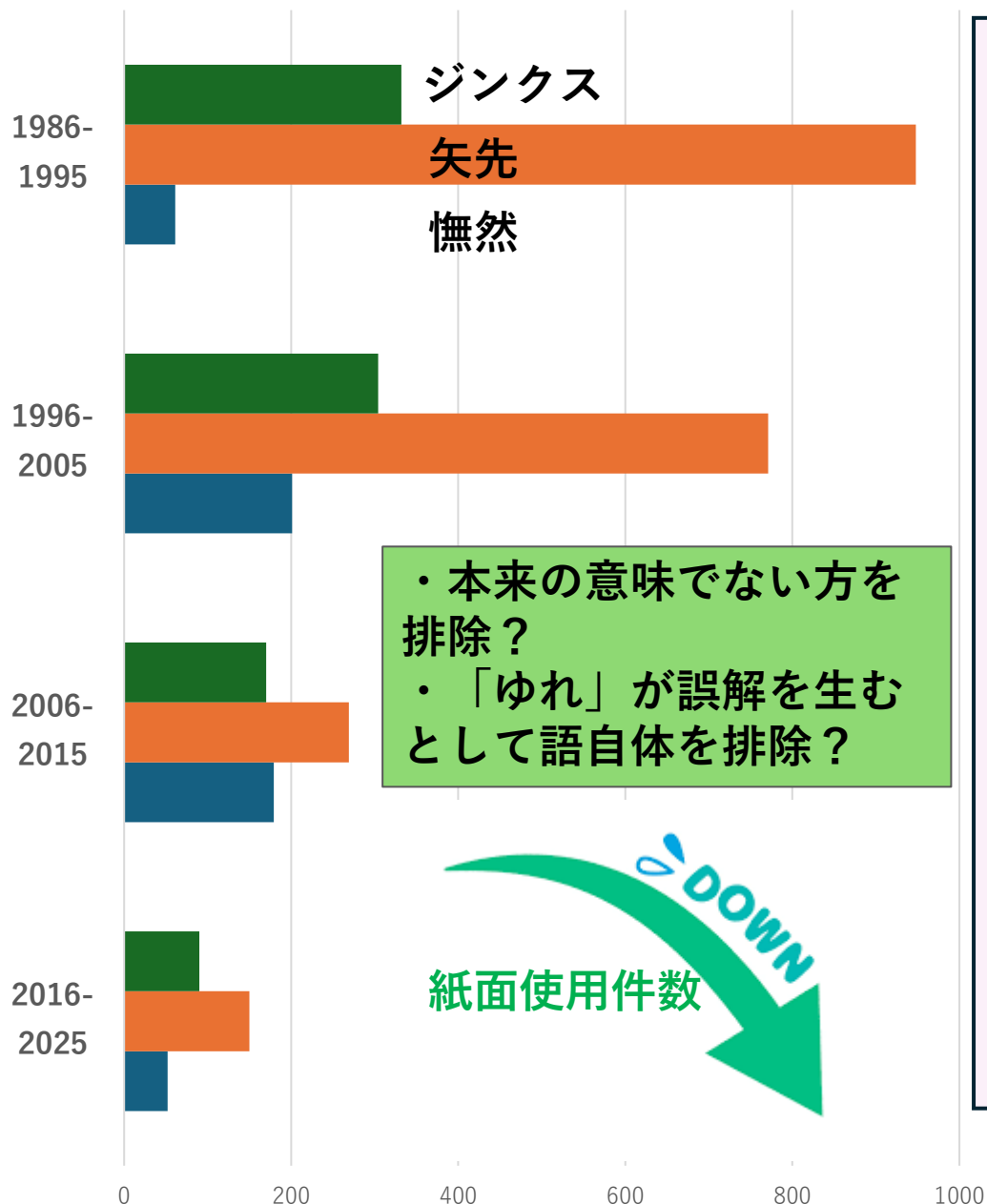
本来は縁起の悪い物事をいうが、**近年**では縁起の良い物事をいう場合もある。(大辞林)

矢先

何かを始めようとする、ちょうどその時。始めたばかりでまだ物事が成就していないその時。物事が完全に成就した時にいうのは**新しい**使い方。(明鏡国語辞典)

慥然

近年、「慥然たる面持ちで」とした場合、「腹を立てているような顔つき」の意味で使われることが多くなっているが、本来は誤り。(大辞泉)



<新聞用語集>

ジンクス(81、96、07、22)

元来「縁起の悪いもの」「けちのつくもの」の意。「縁起がよい」意味で許容している**辞書もあるが**、使わない方がよい。

矢先(07、22)

何かが始まろうとする直前の意。「外出しようとする(した)矢先に客が来た」のように「ちょうどその時」までで、「直後」の場合「外出した矢先」とするのは**適切ではない**。

慥然(22)

「腹を立て、むっとする」意味で**使われることが多いが**、本来は「失意や不満で、むなしく、やりきれない思いでいるさま」

「新聞用語集」2022年版[誤りやすい表現・慣用語句]から

確信犯

宗教的・政治的確信のもとに行ったことが犯罪になることが本来の意味だが、悪いことと分かっていながらなされた犯罪や行為、また、その行為をした人のことも**そういうようになった**。

国語辞典

岩波国語辞典

▽1990年ごろから、俗に、悪いとは知りつつ（気軽く）ついでしてしまう行為の意に使う。

「国語に関する世論調査」

2002→2015年度
宗教的、政治的信念から
16.4→17.0 %
悪いと分かっているながら
57.6→69.4 %

姑息

「その場しのぎ、一時の間に合わせ」が本来の意味。新しい用法として「ひきょうな・ずるいさま」**を載せている辞書もある**。

広辞苑

6版（2008）一時の間に合わせ。その場逃れ
7版（2018）②俗に、卑怯なさま

2003→2010→2021年度
一時しのぎ
12.5→15.0 →17.4%
ひきょうな
69.8→70.9→73.9%

激を飛ばす→げき（檄△）を飛ばす

本来は「自分の意見などを強く訴え、人々に同意や決起を促す」こと。「部下や選手を叱咤激励する」意味で使うのは**俗用で**、「奮起を促す」「励ます」「活を入れる」などとする。

明鏡国語辞典

指導者が選手・部下などの奮起を促すために、叱咤激励の声を発する。
2版（2010）〔新〕
3版（2021）〔俗〕

2003→2007→2017年度
知らせて同意を求める
14.6→19.3→22.1%
刺激を与えて活気付ける
74.1→72.9→67.4%

鳥肌が立つ

岩国第5版（1994）「近頃は感動の場合にもいう」

新聞用語集1996年

1998年の長野冬季オリンピックで、テレビリポーターが感動したという意味で用いたのを「使い方がおかしい」と投書がきた（読売新聞）。

「国語に関する世論調査」2001年度
余りのすばらしさに鳥肌が立った 40.6%
余りの恐ろしさに鳥肌が立った 64.6%

恐怖

2004年、朝日新聞コラムで、感動・興奮した経験を「鳥肌が立った」と表現したところ、読者からの反発があった。

三国5版（2001）「鳥肌が立つほどの名演技」（用例のみ）

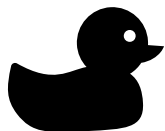
2003年読売新聞連載「新日本語の現場」で取り上げたところ、「感動の鳥肌」を支持する投書が多数。

感動

新聞用語集2007年

明鏡第2版（2012）近年、「感動で鳥肌が立つ」などといい意味で使うのは**本来的でない**。

三国第7版（2014）②**ぞくぞくするくらい感動する**「鳥肌が立つほどの名演技」（語釈追加）



「国語に関する世論調査」2015年度
余りのすばらしさに鳥肌が立った 62.0%
余りの恐ろしさに鳥肌が立った 56.6%

新聞用語集2022年

明鏡第3版（2021）「素晴らしい演技に鳥肌が立つ」[使い方]感動したときなどにいい意味でいうのは、**新しい使い方**。



鳥肌が立つ

新聞用語集1996年

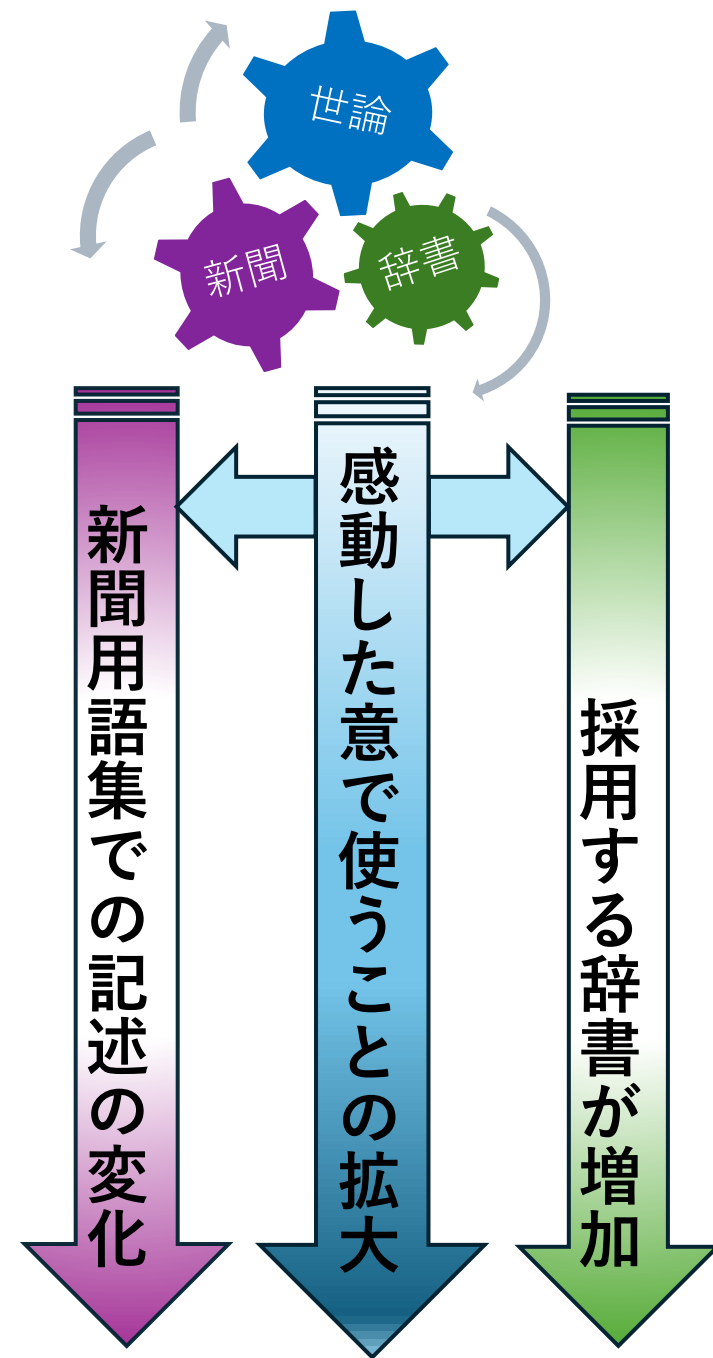
恐ろしさや寒さのために皮膚がざらつく状態を指すのが慣用。**感動の表現として用いるのは好ましくない。**

新聞用語集2007年

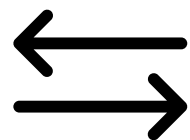
恐ろしさや寒さのために皮膚がざらつく状態を指すのが本来の意味。最近、感動・興奮の表現として用いられるようになり、**採用する辞書も出てきた。**しかしまだ違和感を持つ人も少なくないので**感動表現で使うことは慎重にしたい。**

新聞用語集2022年

恐ろしさや寒さのために皮膚がざらつく状態を指すのが本来の意味。**最近、**感動・興奮の表現として用いられるようになり、**採用する辞書もある。**しかしまだ違和感を持つ人も少なくないので**感動表現で**に使うことは慎重にしたい。



使用の広がり



「真逆」の使用 拡大と抵抗

2003年小説「アンタ、さっきと言ってるコトが真逆じゃん！」（阪本良太）
2005年小説「だけど、真紀ちゃんと私は真逆。」（辻村深月）

辞書に掲載

2006年 大修館書店新語キャンペーンで取り上げられる
2007年版「現代用語の基礎知識」若者のことばコーナー
2008年「三省堂国語辞典」第6版で「俗語」として掲載
2009年「岩波国語辞典」第7版で「俗語」として掲載
2010年「明鏡国語辞典」第2版で「新語」として掲載

2018年 広辞苑7版に掲載

2021年版 情報通信白書「『平等』と『格差』」という真逆の方向

2009年 読売で若者を対象とした記事で「真逆の本心」と使用、読者から抗議。

新聞では使うべきでない

2020年版「読売スタイルブック」俗語なので「全く逆」「正反対」などとする。

2019・2025年版「毎日新聞用語集」俗語なので、引用や話し言葉を特に生かす以外は「正反対」「全く逆」などのように言い換える。

読売調べ

1986-1995

3

「真逆」
紙面出現数の増加

1996-2005

6

2003年小説「アンタ、さっきと言ってるコトが真逆じゃん！」（阪本良太）
2005年小説「だけど、真紀ちゃんと私は真逆。」（辻村深月）

2006-2015

109

2006年 大修館書店新語キャンペーンで取り上げられる
2007年版「現代用語の基礎知識」若者のことばコーナー
2008年「三省堂国語辞典」第6版で「俗語」として掲載
2009年「岩波国語辞典」第7版で「俗語」として掲載
2010年「明鏡国語辞典」第2版で「新語」として掲載

2009年 読売で若者を対象とした記事で
「真逆の本心」と使用、読者から抗議。

2016-2025

160

2018年 広辞苑7版に掲載

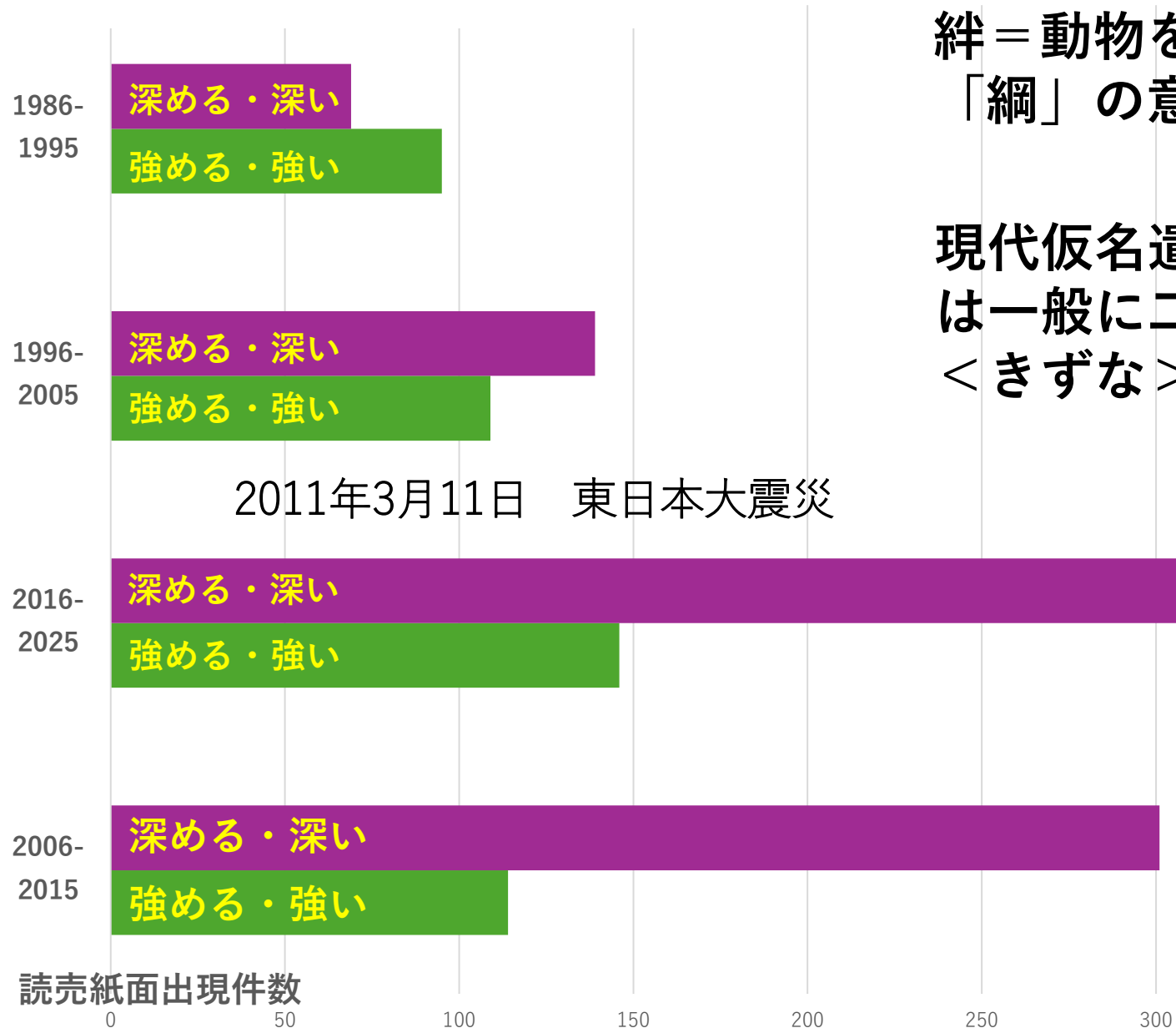
2021年版 情報通信白書「『平等』と『格差』という真逆の方向

2020年版「読売スタイルブック」俗語なので
「全く逆」「正反対」などとする。

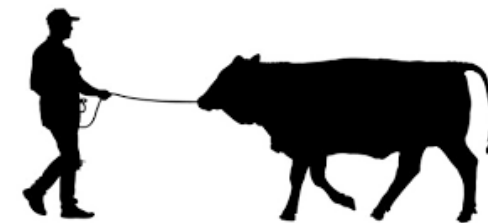
2019・2025年版「毎日新聞用語集」俗語なので、引用や話し言葉を特に生かす以外は「正反対」「全く逆」などのように言い換える。



絆を～ 絆が～



絆＝動物をつなぐ
「綱」の意。

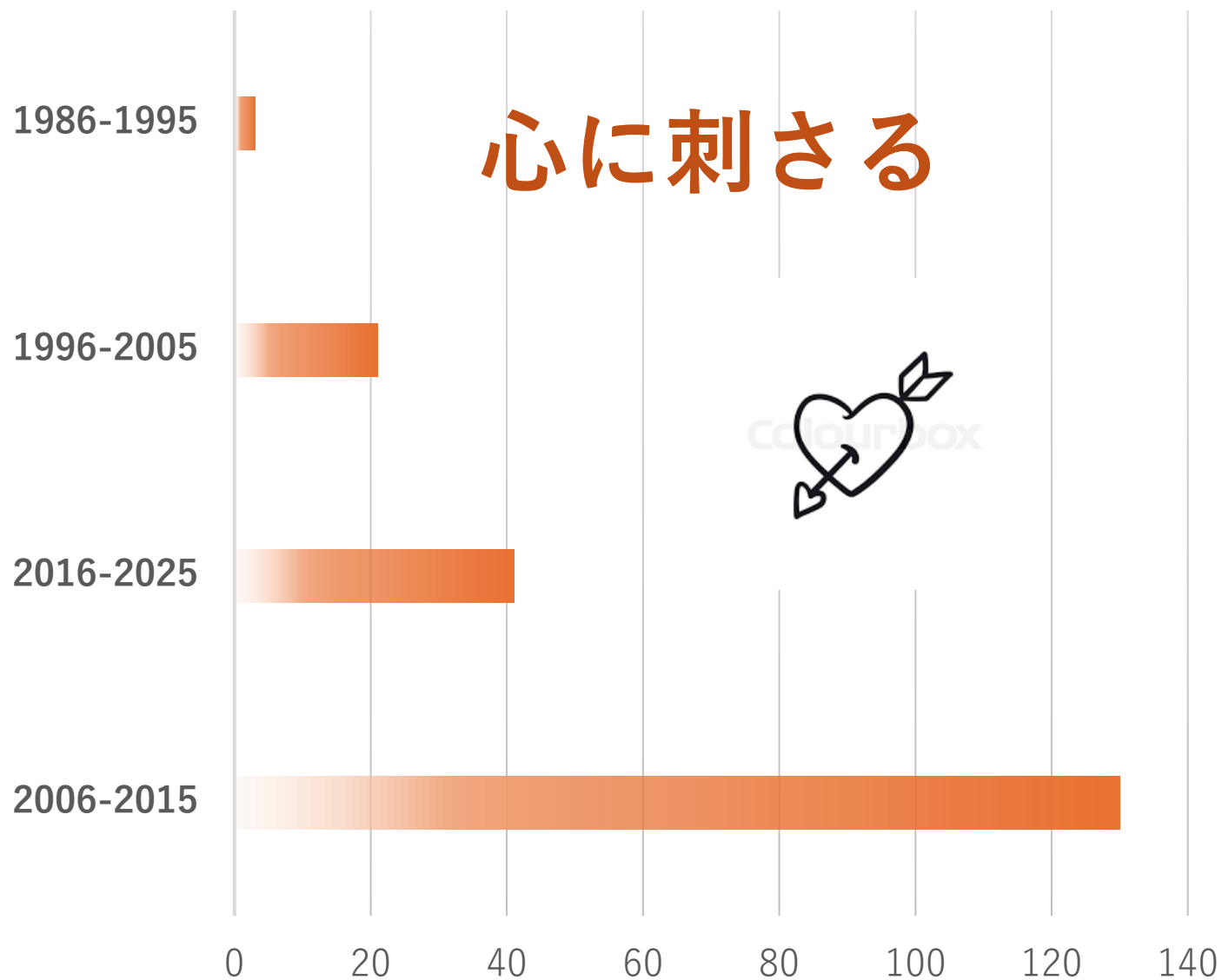


現代仮名遣いでは、「現代語の意識として
は一般に二語に分解しにくいもの」として
<きずな>と表記する

2011年3月11日 東日本大震災

新明解国語辞典第7版（2011年）
「日欧間の絆を深める」「平和への絆〔連帯〕を強める」
三省堂国語辞典第7版（2014年）
「絆が強まる」「絆が深まる」

読売紙面出現件数



刺さる

「明鏡国語辞典」第3版

②〔新〕強い衝撃や感動を与える。「心に刺さる歌詞」

「絶賛語辞典」

〔新〕「若い層に刺さる表現」「刺さる歌詞」▼強い衝撃や感動を与える。「心に刺さる」「胸に刺さる」
とも

「三省堂国語辞典」第8版

③強い印象をあたえ、心を動かす。「（相手に）刺さる表現」〔2010年代からの用法〕

新聞の言葉

本来の意
味・用法
に戻る

使われな
くなる

新しい表現
として定着

辞書の言葉

ゆれ

誤用
誤解

社会・
意識の
変化

